

一第40編 一上院の庭の都市公園

パリは都市公園の天国だ。山手線の内側ほどの市内には、大中小を含めると400を超え。その中でもリユクサンブル公園^{*1}は約22・5haの広さを持ち、ラ・ヴィレット公園^{*2}(55ha)、チュイルリー庭園^{*3}(25・5ha)、ビュット・シヨールモン公園^{*4}(25ha)等に次ぐ、パリ市内でも最大級の公園である。21haが市民に解放されている。

もともとは、1612年にマリイ・ド・メデイシスの命によってリユクサンブル宮殿に付随する庭園として造園された。第一執政期以降は元老院(セナット・上院)の敷地となり、上院の議会棟は、庭園北端の手が届くような位置にある。

70年代の前半、私は左岸6区の徒歩圏内にあるアパルトマンの小さな屋根裏部屋に住み、天気の良い週末ともなれば近くの教会の鐘の音にせ



写真40-1 幾何学的な樹木で切り取られた芝生広場



写真40-2 園内北端のセナット(元老院)議会棟

かされるように、この公園によく通ったものだ。上院議会議棟の前の池では、子供たちが大人と一緒に遊んでおもちやのボートやヨットで戯れる。園内の一角には幼い子供とその親向けに、有料だがフェンスで囲まれた安全で広い遊園地がある。常設のあやつり人形劇場やカルーセル(メリー・ゴー・ラウンド)もある。子供たちがポニーに騎乗することもできる。時々無料の音楽公演が広場のガゼボで開かれ、週末ともなれば木陰の小ぢんまりとした手頃なカフェやレストランでは、多くの人々が屋内外で音楽とワインとそして会話を楽しむ。丁寧に幾何学的に刈り込まれた大きな並木が広大な芝生を空間化し、その上で週末をくつろぐ恋人や家族。朝から椅子に座って本を読みふける人々はもちろん、近年は健康ブームに乗って太極拳やジョギングに興じる一団もずいぶん増えた。

こうして、物語のような歴史の断片や、大きく育った木々に囲まれながら、思い思いのアーバン・リゾートが展開される。そこに身を置きながら、都心にあるべき市民のための公園の役割を、噛みしめることができたのであった。



写真40-3 太極拳に興じる一団



写真40-4 泉を飾る歴史の断片

*1
Jardin du
Luxembourg: パリ第
6区の都市公園

*2
Parc de la Villette:
パリ19区の都市公園

*3
Jardin de Tuileries:
パリ1区の公園

*4
Parc des Buttes-
Chaumont: パリ19区
の公園

*5
Marie de Médicis
(1575~1642)
: フランス国王アンリ
4世の王妃、ルイ13世
の母